

家平

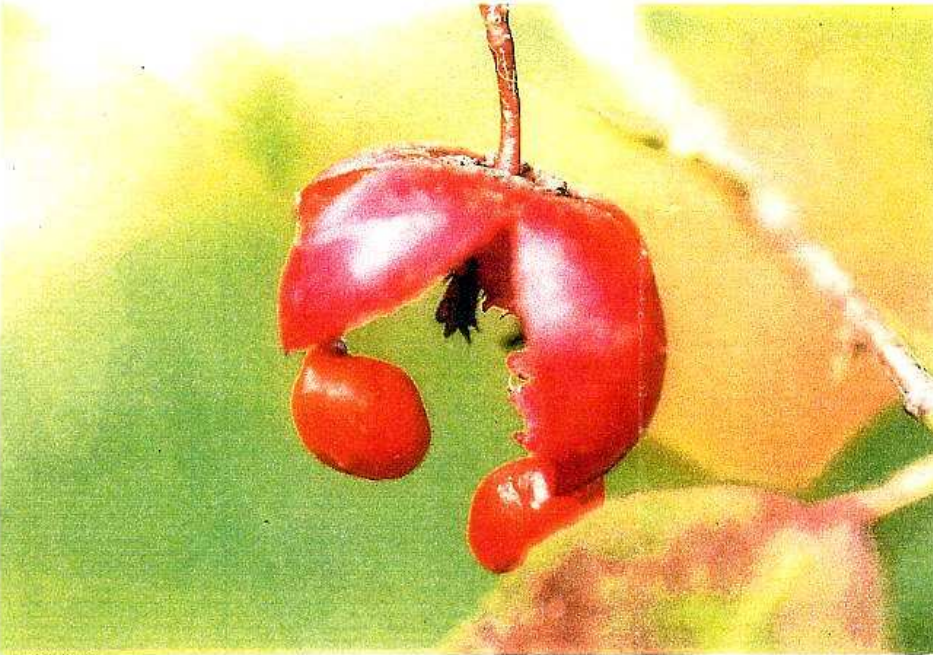
マニスリーの月

観光をリーディング産業にするという市長さんが宣言して、大歩危、祖谷へ目むけたり、イベントが多くなり、一定の成果はあげているのびじょう。

昨年、十月は「家平マニスリー」という事で、毎週末、祖谷でのイベントが続きましました。

「粉ひき節日本一大会」や「五三をスズル社谷をスタート」に、メインは「二三日の武者行列・創作劇」。

ツリハチの果



私自身は、丁度以外は関係してないのび、これ

事業もよく、三嶺の農対策のネット張りの作業に何日か雇われたぐらいでした。

それにしても、こんなイベント、イベントが連続して、本当に観光にプラスになっているのびどうかと感のこまいました。

実行委員会等を作つて、準備はしているようですが一部を除いて、ほとんどが市の職員が運営している状況。

とりわけ、観光を仕事にしている人は、当日何かの商品の売り上げだけが中心で、イベントに食いついて動いているだけの様に見えてなりません。

地域おこしとか村おこしとかに役立ち、地域が元気になっている様には見えなないのはどうしてでしょうか。

多少時間がかかったとしても、観光という産業のあり方とか、イベントおこしの観光とか、地元住民一人ひとりの取り組みとかを真剣に話しあい、市の職員が中心にならなく

ことも運営出来る仕組みを作りたいかなと、目的がイベントになつてしまいかねません。

市民が中心の市政が、かけ声だけで終わらせない為にも。



うまい話

「オレオレサギ」が日常の様になり、億単位の被害が続いているのに、今頃に手をかえぬかえぬ続けるようぶ。

また、毎年、マルチ商法が何億をこにして、つかまる「会社」の社長が「マニス」になつていきます。

その程、うまい話には、つい手を出してしまつのが人情なのびじょう。

また最近では、NPO法人の名のたつとに暴力団とか新興宗教が、金をためるはじめめるのも耳にします。

「うまい話」は、うまい話に「甘い話」か、はびまり、気がつけば、……という事に

なつてくるのび。

たとえば、多額の寄付をしてくれらる団体個人だったり、補助金を引くつづくるのが上手な団体だったり、NPOには

は、つい近づいてしまつていきます。

誰よりも多額の寄付をしてくる下さる人があれば、嬉しいものびですが、昔かこにどういったものはなくとやめたい

ます。

まして、その活動が不明だったり、社会福祉や教育、エコなど活動のもとに、

の手が近づけば、……かなが気がつきませんのび、十分な注意が必要のびじょう。

所で、マニスリーの「マル」は、誰びん勝手に使用してしまつてしまつてしまつて